かたりべ49

豊島区立郷土資料館だより

上：左に見える箱型のものは木製の冷蔵庫。1、2年生の澄んだ瞳に学芸員の説明にも力がはいる。左：教材園で収穫した稲をカナコギでこぐ。平和小学校プレイルームにて。

21世紀に伝える地域のくらし

郷土資料館では、千早三丁目田島平良家が所蔵する資料の調査をしています。資料は、明治時代後半から高度経済成長が始まる一九六〇年代頃までに使っていた農具や生活用具類で、これらからは、地域のくらしの移り変わりが手に取るように伝わってきます。

そこで、地域のむかしを知るための良い機会を提供できると考え、資料を仮置きしている平和小学校で、これらの資料を教材として活用し、公開しました。資料の保存状態がよいものについては、実際に触ったり動かして"資料との対話"を心がけました。一年生から六年生一〇五人の大部分の子どもたちにとって、初めて見るものばかりだったようです。

資料は、長い年月を経ていることや調査の途中であったため埃を被っていました。そのため小学生の感想が気がかりでしたが、「きたないものとは思わない。不思議なものだと思う」ということばに内心ほっとしました。今後も、小学生にこのような地域資料の活用の機会を作っていきたいと思います。［福岡］

一九九七年度
〝第四回収蔵展示〟のお知らせ
（一九九八年五月末日まで）

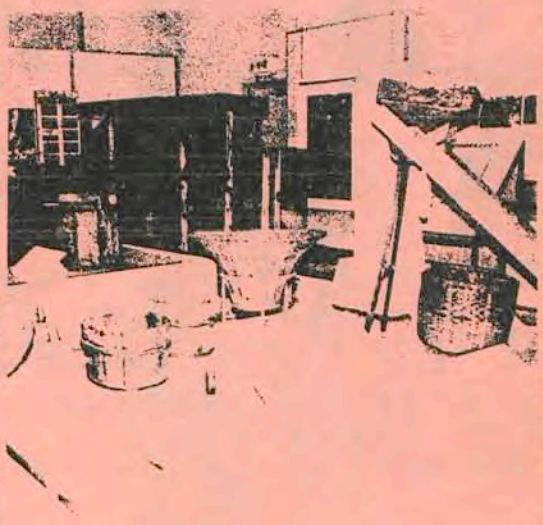
二つの「展示室」

郷土資料館の展示室は、大きく二つの展示室に分かれています。ひとつは常設展示室、もうひとつは収蔵展示室です。常設展示室では、区内の四地域を代表する歴史について、◇駒込・巣鴨の園芸、◇池袋ヤミ市、◇雑司が谷鬼子母神、◇長崎アトリエ村の内容で展示しています。

ここの展示は、当館が一九八四（昭和五九）年に開館して以来変わらない展示で、いつでも区内の歴史が概観できるようになっています。しかし、手狭であることや新しい資料の紹介には、この常設展示室だけでは不充分です。そこで収蔵展示室が必要になります。ここでは、特別展（一九九六年度まで実施）や収蔵展示（一九九七年度から実施）を行ない、個々の歴史事象や地域の歴史を深めていただく場所として使っています。

歴史へのさまざまな関心

今回の収蔵展示室では、長崎という地域にこだわった展示コーナーを設けました。堅苦しくいえば、人のくらしの精神的な側面と物質的な側面についての展示です。題して**民家にみるくらしの祈りと変わる農作業のすがた**です。常設展示室における長崎という地域の紹介では、その時代の特異な存在であったアトリエ村を取り上げていますが、ここでは、ふつうの暮らしについてみることとしました。資料は、実際に区民の方が使用していたものです。



当館にはさまざまな資料が寄贈されます。保管場所を考えると全ての要望には答えられませんが、できるかぎり区内の歴史資料の収集に努め、調査を終えたものについては、逐次収蔵展示室でお披露目するようにしています。今回は、娯楽と文化の拠点として発展した池袋地域とのかかわりがある**文芸坐**（一九九七年三月休館）について、前回の寄贈資料に追加して、新しい資料をお見せしています。

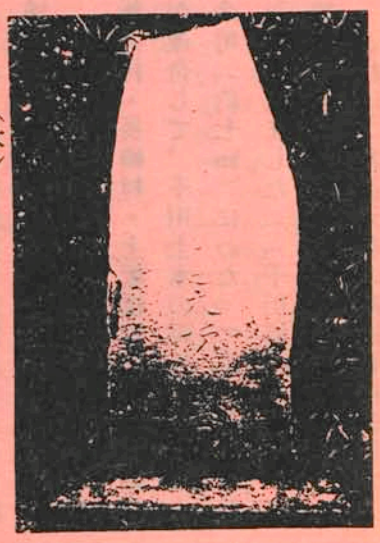
ところで、今年度は、第三回収蔵展示の後、同所で**豊島の遺跡98**が文化財係によって行なわれ（二月一二日から三月一日）、当区初の埋蔵文化財に関する展示として注目されました。駒込・巣鴨地域の発掘調査の成果を中心に個性豊かな各遺跡からの出土遺物が紹介されましたが、開催期間が短くて見ることができなかった人のために、その時の展示のごく一部を継続して展示することとしました。

この他に、最近問い合わせが多くなった**豊島氏**について、区内の関連事蹟をパネルで紹介しています。盛りだくさんな展示をどうぞご覧ください。［福岡］

連載　一点の資料から《その17》

豊島泰継妻墓 ―幕末・維新期の旗本豊島氏―

千葉県木更津市本永寺に、次のような墓石があります（」は改行）。



（表）（本）□行院殿妙成日運大姉墓
（裏）明治二己巳年」八月十三日」豊島泰継妻

豊島泰継とは、中世豊島郡を支配した石神井豊島氏の子孫で、雑司ヶ谷法明寺を菩提寺とし、江戸三番町（今の千代田区）に屋敷があった、二五〇石程の小身の旗本です。そして、その妻は「豊島家過去帳」に、享年六十一歳で本永寺に葬られたと見えます。本永寺も法明寺と同じく日蓮宗系のお寺ですが、なぜ、木更津に葬られているのでしょうか。

実は、現在の木更津に含まれ、江戸時代上総国望陀郡中島村と言った所が豊島氏の知行地だったのです（但し、領主が複数の相給の村）。丁度今アクアラインの千葉県側最初のインター金田・中島料金所あたりがそこに当たります。

中島村は、豊島氏と関係が深く、名主の小原家に伝わる口伝では、明治維新時豊島夫妻を匿ったといい、今も現存する土蔵は、豊島家よりそのお礼として江戸から舟運で送られたものといいます。蔵は改修がなされてしまいましたが、小刀や奥方が使用した和鏡も現存しています。豊島泰継の妻は江戸を離れ、旧知行地で亡くなったのです。

明治二年（一九六九）といえば、江戸幕府が倒れ、旧幕臣は再就職先を求め、朝臣の途を採る者、旧知行地に帰農する者、徳川家とともに静岡に移住し、静岡藩士となる者、あるいは新政府に抵抗し、函館まで転戦する者など様々でした。豊島泰継の場合は、詳細は調査中ですが、家族七人で静岡に移住し（「駿河江移住相願候者家族人数書」）、浜松勤番などを務めたようです。しかし、泰継の嫡男泰道が四十一歳の若さで、明治元年亡くなっていることから、おそらく、豊島氏は戊辰戦争にも幕府軍として参加し、幕府が敗れると一時旧知行地に隠れていたのではないでしょうか。しかし、泰継は当時六十五歳であり、時代の新しい波に対応するには難しい年齢だったに違いありません。

［今野］

豊島をさぐる《その6》

桜の名所・「新小金井」

「豊島区が誇る一遊覧地」（『豊島区史』一九四一年）といわれ、昭和三〇年代初期に消えた桜の名所をご存じでしょうか。それは、千川上水の桜並木です。

千川上水は、江戸府内への給水のため元禄九（一六九六）年に玉川上水より分水され、その後農業や工業用水として流域の人々に利用されてきました。

大正四（一九一五）年、下練馬村・中新井村・長崎村・上板橋村の流域四か村が連合して、千川上水の両堤に一里二十余町（約七㎞）にわたって桜と楓を千数百株植えました（「千川堤植桜楓碑」が練馬区浅間神社境内にあります）。

これは、大正天皇の即位を記念して、下練馬村の篤志者が発案したのに始まるようです。おそらく、江戸後期から玉川上水の桜並木が「小金井桜」と賞され、桜の名所として賑わっていたのにあやかって、千川上水も桜の名所にして地域の振興を図ろうとの流域住民の願いが込められていたのかも知れません。

昭和27(1952)年の桜並木　練馬区教育委員会撮影・提供。現在の長崎5丁目か。

小金井桜が山桜なのに対し、千川上水は吉野桜と八重桜でした。当時の写真をみると、吉野桜はソメイヨシノではないかと思われますが、当時桜と楓の苗木をどこから調達し、どのように植えたのか詳しいことはわかっていません。

昭和五年、樹齢二十年となった桜並木は「新小金井」と呼ばれ、桜の名所として近隣からの花見客で賑わいました。しかし都市化が進むと昭和二七年頃から千川上水の暗渠工事が始まり、それとともに桜並木も姿を消したのです。［横山］

この時期にこそ見たい浮世絵や絵図を展示しています！　（常設展示室）

＊「東京名所第一之勝景　墨水堤花盛の図」　明治14年　三代広重画

＊「武蔵百景之内　東京隅田堤のさくら」　明治17年　小林清親画

＊「染井・王子・巣鴨辺絵図」

＊「江戸名所之内　飛鳥山花見之図」　広重画

＊「東京名所四十八景　飛鳥やま」明治4年　昇斎一景画

＊「武蔵野小金井桜順道絵図」

＊「威光山法明寺全景図」明治40年他

郷土資料館Q&A・スペシャル

「池袋駅の西・東」・・・・・西が東武で東が西武であるわけは？

Q どうも不自然な感じがすると思ってたら、JR池袋駅の東口に西武池袋線の駅と西武デパートがあり、西口に東武東上線の駅と東武デパートがあるのですね。東側が西武、西側が東武となっているのですが、これはどうしてですか？

A 池袋にあまり足を運ばない人々のあいだでは、

「じゃあ、池袋東口の交番の前で待ち合わせよう。」

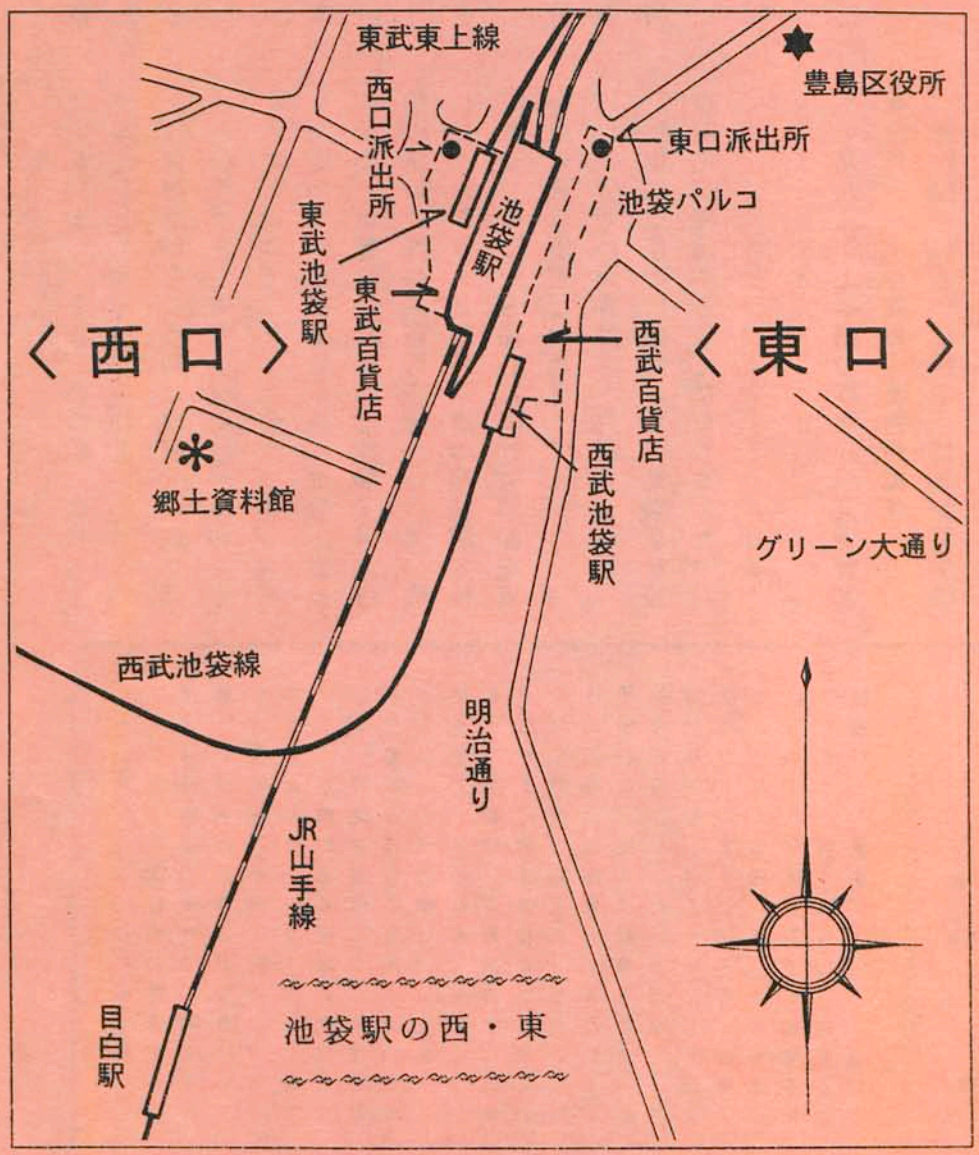
「うん、えーと東武の方だっけ。」

「違う、違う。西武の方！」

というような会話も聞かれるようです。

確かに、東側に東武、西側に西武という方がスッキリした感じはしますね。

実は、私鉄の駅の配置が現在のような状況になっているのは、鉄道の一大ターミナルである池袋駅の歴史と深く関わっているのです。



一八八五（明治一八）年の日本鉄道目白駅の開業から遅れること一八年。一九〇三年四月に池袋駅が開業します。その後、東京の都心部と郊外を結ぶ鉄道が次々と設営されていきます。

そのような中、一九一四（大正三）年に東上鉄道が開通し、山手線池袋駅の西側に東上鉄道の駅ができます。池袋から北西に延びる鉄道ですから、西側に駅を作るのは当然のことです。

その翌年、武蔵野鉄道が開業し、池袋・飯能間が開通します。この鉄道も池袋から西へ延びる路線ですが、すでに池袋駅の西側には駅がありますので、東側に駅をつくり、山手線を陸橋で渡る形で線路が敷設されました。

これで、山手線池袋駅の西側に東上鉄道の駅が、東側に武蔵野鉄道の駅が建てられるという形になりました。

その後、東上鉄道は、一九二〇（大正九）年に東武鉄道と合併し東武東上線となり、武蔵野鉄道は、一九四五（昭和二〇）年に西武鉄道などと合併して西武農業鉄道と改称し、今日の西武池袋線となります。また、それぞれの駅に隣接して双方のデパートも建てられました。このような理由から、西側に東武、東側に西武という現在の様な状況になったのです。

さて、余談ですが、今のグリーン大通りを走っていた都電17系統（池袋・数寄屋橋間）が敷設される前、池袋・護国寺間の路線免許は武蔵野鉄道が持っていました。おそらく武蔵野鉄道の池袋駅で接続させ、そこから都心に向けて路面電車を走らせる予定だったようです。

この区間の免許は、一九三八（昭和一三）年に東京市に譲渡され、池袋駅に東京市電が接続することになりました。

［伊藤］

†一九九八年上半期の事業計画〈予告〉

◆四月一八・一九日　博物館講座「大型博物館を見る」江戸東京博物館見学等

◆三月一〇日～五月末日　第四回収蔵展示「民家にみるくらしの祈り」他

◆五月末日～六月初旬　収蔵庫の資料を燻蒸します。そのため休館になります。

◆六月末日～七月　地域史講座

編集後記

年度末。全国各地の博物館からは、「特別展図録」や「調査報告集」が続々と郵送されてきています。博物館とか美術館では、自治体をこえたネットワークができていて、自館がある地域の歴史と文化を、世間に発進しながら館の運営や地域の情報を交換しています。

これらの刊行物は、〈交換〉という形でやりとりをしていますが、近年、当館では予算削減で刊行物が出せず、関係各位に対し申しわけなく思っています。しかし、受けた刊行物は図書ラベルを貼り、地域別に配架し、館事業のための参考資料としてだけではなく、各種レファレンスのためにも有効に活用しています。どうぞ、今後ともよろしくお願い申し上げます。

なお、次年度も筆者が編集を担当します。多くの方のご意見をお待ちいたします。

［福岡］

かたりべ
No 49
1998年3月31日
豊島区立郷土資料館
豊島区西池袋2-37-4
電話03-3980-2351
豊島区広報印刷物
L30-09-076